

## 結びに代えて

今回、編集を行う中、改めて大正・昭和初期の活動を振り返ることができました。西洋文化を取り入れ、遅れている日本の生活文化を自らの手で作り上げようとする意欲に燃えて取り組む姿勢が見えてきます。海洋スポーツを立ち上げると共に、当時の日本にない人生の糧となる「ライフ」を築くべく、「社交とスポーツを合わせ持つ倶楽部」を見よう見まねで実践・行動してきた経緯が、その残された記録に綴られています。

3世代目に当たる我々現在のBYCがうまくその意思を継いでいるのでしょうか。BYCも最近は日頃の行事をкаろうじてこなしている状況でマンネリ化しており、クラブハウスも昔のように自由にならない環境下、どうも、全体的にも、単なる利用者として枠にはめられた中で、新たな工夫が出来ない、しない状況に陥りつつあり、これではいけないなと思うところです。この機会に、今一度、偉大な先人の功績を振り返り、また各人からの意見を発していただく事により一体感が高まれば、本誌制作の苦勞が報われるのではないかと考えております。

古い貴重な資料も持っているだけでは意味がありません。これを皆が共有することで、意義が生まれます。また、同時に、BYCは日本最古級と自慢するだけでは全く意味のないことです。それぞれが、努力・工夫しながら楽しさを求めて行動する、そんな姿勢が求められていると思います。

セーリングは、正に自然の中に身を置き、純粋な自然エネルギーを利用して楽しむ、最も環境志向の高い、これからの時代にマッチした素晴らしいスポーツです。その楽しさを分かち合える仲間が、もっと増える事を切に願っています。

編集責任者 青木英明



BYC ホームページ



BYC HP 100周年記念特集ページ

## 編集後記

コロナ禍もあり、十分時間を使ってと思う中でしたが、どうしてどうして、あっという間に締切が来てしまいました。90周年記念誌でかなりまとめているものの、十分な対応ができず反省しております。歳を取るに従って時間がどんどん短くなると言いますが、思うことが思う時間で進みません。今回は100周年記念にも関わらず、90周年の記述を大方流用する手抜きになってしまいました。しかしながらBYCの事実史は写真・資料から来る不変なものであり、90周年記念誌の多くの再掲についてはお許し願います。

前回90周年の記念誌は、製本数を最小限にするため、PDFのDV-ROM配布を主な媒体としました。しかし今回は100周年の大きな節目でもあり、冊子でお届けする事を優先にして、来賓・会員の皆様の挨拶文は大きく削減し、100周年の記録伝達を優先してページ数を削減することといたしました。新しい企画としては、会員各位からのヨットクラブに対する意見や考え方を、次の100年に向けて記述いただくコラムを設けました。課題を多く抱えながらのBYCですが、今後の活動への意識が少しでも伝わればと願っております。

御覧いただける貴重な資料や記録写真はほとんど小冊子では紹介しきれないほど多くあります。前回はDVD-ROMに付録データとして資料編を添付しましたが、今回は本文、資料編共にBYCのホームページにていつでも見られるようリンクを設け公開する予定です。HPの整備は少しは始めているのですが、整うまでしばらくの猶予をください。

外部委託もしない貧乏素人自主編集で、使用ソフトウェアも十分使いこなせない状況で、校正できていない箇所が多く残っていることと思います。またレイアウトデザインももっと凝りたいところでしたが、余裕のない状況で、しようと思いつきながらそのままになってしまったところも多くあります。このように多々至らないところが多くある状況ですが、趣旨と内容を伝えるという第一義をまずは果たすべきと割り切ったこと、どうかお許しいただければと思います。

編集責任者 青木英明



琵琶湖ヨット倶楽部  
BIWAKO YACHT CLUB

### BYC 1922-2022 (琵琶湖ヨット倶楽部創立100周年記念誌)

発行： 琵琶湖ヨット倶楽部 滋賀県大津市柳が崎1-2

発行日： 2024年9月8日

発行責任者： 青木 英明

編集責任者： 青木 英明

事務局連絡先： aokix@sannet.ne.jp 青木英明宛

本誌内容の無断転載を禁じます。利用希望の際は事務局までお問い合わせください。

非売品

Copyright (c) BIWAKO YACHT CLUB, All Rights Reserved, 2024